

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成30年7月19日
第847号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1
Tel: 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) FAX: 4117
<http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail: kanai-es@sado.ed.jp



親の会第1回学習会で御講演いただいた横澤様より、親の会の皆様へ『親が子どもの力を引き出す一番の専門家です。』というメッセージをいただきました。

夏休みに入ります。お子さんとじっくり向き合う時間が持てますように！

和顔愛語

両津中学校

校長 加藤 雄一郎

「和顔愛語」(わけんあいご)という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。

仏教の法華経の中に出てくる「和顔施」で、寄付などと同じお布施の一つです。「和顔」とは、和やかな顔、つまり”笑顔”のこと。「愛語」とは、”優しい言葉”のことです。

ニコニコと柔和な顔で、優しい言葉を発することが相手の心をほぐし、善行になるということです。この日常の中の小さな善意(行為)は、どんどん伝染して広がっていきます。

赤ちゃんや子どもたちの笑顔を見ていると、こちらまで嬉しく幸せな気持ちになります。学校でも家庭でも、笑顔の溢れる学校、いつも笑いが絶えない家庭は自然と幸せが集まってきます。

お釈迦様のこの言葉、今の時代でも有り難く受け止めたいものです。笑顔と上品な優しい言葉のシャワーを夏の陽射しのように周りの人に浴びせましょう。親の和顔愛語は子どもに自信を与えます。お子さんの笑顔は家族を明るくしてくれます。和顔愛語のキャッチボールを広げていきませんか。

良いモデルがいると

先日、発音の改善のために通ってきているお子さん二人と一緒に学習する機会がありました。通常は教室担当と一対一で学習するのですが、保護者の方の都合から急きょ一緒に行くことになったのでした。

一人は学習がかなり進んでいるお子さんで、もう一人は学習を始めて間もないお子さんです。舌のトレーニングでは、慣れている先輩が余裕で見本を見せました。経験の少ない後輩は、堂々と指導を受ける先輩の動きを見ながら、不安な気持ちをもたずに学習できたようでした。その後も先輩が良いモデルとなり、後輩は声の大きさや高さ等も真似していました。良いモデルとなった先輩も、いつも以上に集中して学習に取り組めました。

モデルの存在はとても大切です。身近なモデルが到達点の指標になり、子どものやる気にもつながります。子どもの身近なモデルである私たち大人は、発音だけでなく、口調や話す言葉選びにも気を付けていきたいものですね。(逸見)





第1回 親の会学習会がありました

6月30日（土）第1回親の会学習会を行いました。金井小学校を会場にカウンセラーの横澤富士子様をお招きして講演会を行いました。現会員や会員外、教育関係者の皆様など多くの方においでいただき、140名の方が御参加くださいました。「子どもと親は同い年～子どもの自立に向けてできること、やってはいけないこと～」を演題に、90分間とても温かい雰囲気の中で貴重なお話を伺うことができました。横澤様ご自身の子育ての失敗談もあり、参会者の皆様は、日々感じている思いを共有しながら聞くことができたのではないのでしょうか。実際に、ペアで「3分間黙って話を聴く」体験も行いました。「話しているときはあっという間だけれど、聴くときは長く感じた。聴くことは我慢が必要なんだ。」との感想がありました。自分の気持ちをていねいに聞いてもらおうと、「安心・安全」を感じ、もっと話したくなるのだそうです。あっという間の90分でしたが、笑いあり、明日から生きるかかわりの演習ありと、支援する大人が元気になれる講演会になったのではないかと思います。



また、保育スペースでは、幼児体育インストラクターの原田光様をお招きし、体操教室を行いました。33名の参加があり、汗びっしょりになりながら目一杯体を動かし、楽しんでいました。帰りに「楽しかった～！」と笑顔で手を振ってくれる姿もあり、嬉しく思いました。

ボランティアの協力をいただきました伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡看護専門学校の学生の皆様、大変ありがとうございました。

参加者の感想

- 普段、我が子の話をいかに聞いていないかを痛感しました。子どもに対して、申し訳ない気持ちになるとともに、パワーをいただくことができました。
- 子どもとの向き合い方…反省することが多くありました。「これからはこうしてみよう」と前向きな気持ち、そして温かい気持ちにさせていただきました。今日ここに来て本当によかったです。
- 以前もお話を聞きました。そのときも感じましたが、反抗する息子を前に「おー、きたきた」と成長を喜び、受け止めることができます。確かに甘えと反抗の繰り返しで振り回されますが、でも順調な成長と親もゆったりと構えることができます。
- 子どもの話を最後まで寄り添って聞ける親になりたいと思いました。
- 自分の子どもはまだ保育園児なので反抗期などの時期についてはまだまだ想像できませんが、「信じて待つ」ことはすごく難しいと感じます。ですが、将来子どもの自信につながる行動になるのであれば、とことん信じてあげたいと思います。帰ってたくさんたくさん話を聞いてあげたくくなりました。
- 日々子育てと仕事に奮闘しています。子育てを通して、自分が親の期待に応えなければ…親も仕事が忙しく、愛着の時期にかかわりが少なかったんだと気付く、我が子にどう接したら良いか戸惑う毎日です。自分が受けていないから「できない」と決めつけず、「親と子どもは同い年」私も子どもと一緒に成長し、私なりの愛情をたくさん注いでいきたいです。

